金沢工業大学
見学レポート

（質疑応答記録を含む）

愛知工業大学・学内報告会

2008/03/21　13:30～15:05

at 12 号館 201 教室

主催：土木工学専攻

参加者：35 名

はじめに

愛知工業大学・都市環境学科・土木工学専攻の教員（常勤教員全員＋α）は、2007 年 12 月 25、26 日の両日、金沢工業大学を訪問し、環境土木工学科の先生方との情報交換ミーティング、学内の視察、授業参観など、じっくりと案内していただき、様々なことを見聞きして来ました。参加者は以下のとおりです。

長瀧重義、森野奎二、建部英博、青木徹彦、四俵正俊
木村勝行、成田国朝、奥村哲夫、内田臣一、
八木明彦、鈴木森晶、小池則満、岩月栄治（計１３名）

この訪問についての各自の感想を、全員分ではありませんが纏めました。

報告会では、まず岩月がパワーポイントを用い時間を追って、見学会全体の報告を行いました（30 分弱）。

続いて、この見学レポートの順に、土木の各教員が報告を行いました。これに感想文がない青木、建部、成田、森野も報告しました。
各人の報告が終わる毎に質疑応答を行いました。

この小冊子に、追加情報や、質疑応答も掲載しました（青字）。

岩月栄治

◆教育に関するIT・ソフトが充実していた（教員のニーズによって関連会社がソフト開発をしてくれる点)。これによって、教員は教育・研究に専念できる体勢が整っていた。
◆学生の居場所がいたるところにある（逆に食堂にはいない)。
◆工学設計の講義は学生グループで課題に取りくみ、調査・研究・発表を行うもので、官・民との連携もあることから、学生には常に刺激をあたえることができる講義であった（愛工大では７号館の２０４教室で可能？？)。
◆工学設計のテキストは非常に充実していて、専門以外の教員でも講義が担当できる内容であった（テキストというよりマニュアル？？)。
◆学生が至る所にいて、活気があった。
◆図書館は一種のサロンで、所蔵コレクションは金沢工大の文化をかもし出していた（愛工大に文化はあるのか？)。
◆基礎教育教員は大部屋（研究室は無い）で、学生との壁を全く排除していた。　これによって学生も質問がしやすい環境にあった。
◆講義用の実験設備と、研究用の実験設備は別にあり、教育を大切にしている大学の風潮が感じられた。
◆副学長が卒業研究発表会に顔を出すなど、大学トップが教育全般に関心を持っていることが印象的だった。
◆実験室にエアコンが設置されていた。
◆教育がシステム的に管理されている（大学教育の思想がJABEEに似ている)。
◆教室のIT設備は充実していてキレイ。廊下との仕切はガラスで明るい（愛工大では１２号館の教室が相当？？)。
◆若手事務職員がとても素晴らしい。教員と同等の立場で説明・案内をして頂いた。教育システムに関しても非常に精通している。
◆大学が学生の意見を真摯に受け止めて改善している（学生の居場所も学友会からの提案で実現してる)。
◆金沢工大と愛工大を受験生が見学すると、施設面では金沢工大のほうが教育環境は充実していると感じてもおかしくない（愛工大は耐震実験センターや地域防災研究センターがあるから？？)。

内田 臣一

◆大学内に学生の居場所がたくさんある。廊下などのちょっとした空きスペースに机といすが置いてあって学生が相談しあったり遊んでいたりする。
◆各学生への教務サービスのための「学生ポータルサイト」の紹介を受けた。多機能でよくできているように見える。
◆教員のうち、少なくとも見学の案内役の人たちはとても教育熱心と見える。

しかし、個人でがんばるのではなく、教員チームとして組織的に教育を改善しようとしているらしい。
◆案内役として同席した事務職員が教育改善の内容をとてもよく理解していた。
文部科学省から特色ある教育プログラムへの助成をもらう際の書類も、彼がほとんど書いた、という。このような事務職員と教員の協力関係が教育改善を支えているように見えた。

奥村哲夫

◆一言で言うと、教育重視の大学である。
◆キャンパスはかなり整備されており、学生が授業後も残って何かをしようという気持ちがもてるような雰囲気が感じとれた。
◆講義室の廊下側はガラス張りであり、廊下からいつでも講義の状況・雰囲気を見ることができ、開放感を感じた。
◆建物内で、学生が自由に使えるスペース（テーブル等）が十分すぎるほど整備されている。
◆学生支援に関して、教員の支援体制が整備され、学生へのアナウンスも掲示板を使って細かく、親切に行われている。また、基礎教育科目（数学と物理）の解説書が発行され、学生が理解できない折にいつでも自由に入手し勉強できるようになっている。
◆職員の対応は素晴らしく、自信をもって職務に就いている印象を受けた。

木村勝行

◆学生に対する教育に、教員のみならず職員さらには上層部(学長・副学長・理事会)まで、大学全体で一体となって取り組んでいると感じられる。
◆学習支援にしても、相談にくる個々の学生に応対する場所が複数個所あり、しかも、本学で総合教育　担当に相当する教員全部が、相談場所と同じ部屋に机を並べ、講義のない教員が適宜学生の相手をする体制になっている。これも大学全体で学習支援に取り組んでいる姿勢が読み取れる。
◆学生のための机と椅子の置かれている場所が至る所にある。図書館は24時間利用できる。音楽が聴ける部屋がある等、学生のためにあらゆる便宜をはかっている。
◆本学では、何でも教員が自分で処理しなければならないと感じているが、金沢工大では何でも事務方　にまかせられるシステムができている。
◆あらゆる問題を大学全体の問題として捉え、全体で議論し、決まったことは全体で実行する、という姿勢には羨望の感さえ湧く。

小池則満

◆安全対策の充実。緊急時の連絡態勢などがすべての実験室等に掲示してある。愛工大でも、今後、労働衛生や安全管理についての教育上の配慮、カリキュラムの充実が求められる。

◆全体的に、教員が「教育」に専念できるような態勢が整えられている。答案の保存（電子ファイル化）などを教員が自分でやらなくてもよいように支援態勢が整っている。

◆職員のかたが、とても自信をもって学内を案内して下さったのが印象的。

◆建物に、その建設に関わった人たちの名前を銘板に残してあった。工学を学ぶ学園としてのポリシーを感じさせるものであった。

◆すべての実験室（教室は当然として）に空調が整えられていた。金沢なので、冬は寒いという事情もあるとは思うが、受験生が見比べてどちらの大学がよいと思うか、推して知るべし、である。愛工大も、もっと学生の目に見えるところへ投資すべきと考える。

◆一方で、大学としての自由度は愛工大のほうが高いように感じた。本来は、やはり学生さんには、もっと自分の考えで、自分の学生生活を組み立てて欲しいと思う。

四俵正俊

◆金沢工大については、かつて報道を見た限りでは何となく宣伝臭を感じていた。その認識が変わったのは、２年ほど前にＦＤ関連のシンポジウムに出席したときである。金沢工大の学長が講演をされた。その内容もさることながら、その時一番印象に残ったのが、講演の前後も、学長がセション全部に参加しておられたことである。非常にフットワークの軽い方だと思った。

◆今回の訪問では、教育に関しては、うちと比べて、個人と企業くらいの差があるという印象を受けた。

◆一番印象に残ったのは、教養の職員室を一つに纏めて、その隣に質問する部屋を配置していたことである。質問に来る回数が一人あたり年２回（？値に自信なし）になるというのは驚異である。

先日、皮膚から万能細胞を作り出した京大の先生が日本にその研究組織を作ろうとしている話題についてのテレビ放映の中で、集めた研究員をすべて一つの部屋に入れて、コミュニケーションを図る積もりだという話が出た。欧米ではよくあると言う。我々は意識改革をしなければいけないかも知れない。

◆ついでにもう一つ、教育システムのプログラム開発のやり方が非常に印象的だった。教員が加わって、金沢工大の系列会社と共同開発していた（今も改良を継続中）。うちの場合はセンターと教務に任せきりで、彼らの責任でたぶんどこか専門の業者にやらせている。これでは既製品の適用をやっているだけだから、いいものはなかなか出来ない。

◆どうしてあれだけのことをやれるお金があるのか、尋ねてみた。寄付が主な資金源とは

言えず、授業料の高さで、このシステムを支えているようである。
◆しかし、一番の要因は資金よりも、大学トップが「教育」を強力に推し進めていることではないだろうか。
◆今回の視察の感想をまとめて言えば、教員を先頭に大学の教職員全体が積極的に教育に関わっている、と思った。研究の方はどうなのか、情報を持っていない。

鈴木森晶

◆全体の印象として JABEE をも包括するような KIT システムのように感じた.
◆全学での JABEE への取り組みが効を奏している.
◆建物などへの投資が実に上手い．金をかけるべき所へ金をかけている.
◆きちんとしたビジョンを持って取り組んだ結果が今現れている.
◆講義室は 7 号館が目指しているスタイルに近い物があった.
◆企業との連携がきちんとできている.
◆特に JABEE 関連の教務ソフトなど業者の言いなりではない.
◆事務員の生き生きとした姿が印象的であった.
◆教員，職員共若さが溢れている．愛工大は若返りが必要である.
◆講義の内容やレベルは決して高く無い，マネージメントが上手い.
◆主役が誰であるかを良く見据えた仕組みづくりになっている.
◆24 時間学生の居場所がある.

●パワーポイントの中に学生の自己点検シート提出箱というのがあったがどんなものか？
　→　いわゆるポートフォリオではないか。学生が自分の受けた講義などについての履歴をファイルとしてとっておく。ＦＤの取り組みの一つとしてあちこちで行われている。
●教養の教員室が個別でないが、入試問題を作るときに困るのではないか？
　→　訊いていない。
●大学のシステムを開発しているソフトの会社について
　→　大学の子会社。卒業生もいる。
　　このシステムは凄い。教員が参加しながらシステムを開発しているので素晴らしいものができる。手間暇かけて継続的に改良していく。大手のソフト会社の既製品をチョコチョコと手直しして使うのとは根本的に質が違う。

●図書館に女性専用のフロアを作った意図は？
　→　２４時間開館しているためではないだろうか。
●若手職員が教員同様の働きをしている状況がどうして可能なのか？

→この職員は卒業生で JABEE のこともよく知っていた。科研費の申請書などもほとんど書くという話もあった。
金工大には、教員と職員を含む組織がいろいろあるみたいだ。
職員が皆生き生きしている。職員の提案が実現するシステムがある。愛工大ではほとんど実現しない。数年掛けて何十名も行ったアメリカでの研修も、教員と職員の両方が参加している。

高校レベルの数学、物理の演習問題が自由に持って行けるようになっていたが、学生が実際に利用しているのか？
→情報無し。
キャンパスの広さは？
→広くない。手狭なので広げることを検討中。
周りに店などあるのか？
→大学は町の中にある。全国区の大学なので下宿生が多い。図書館には北海道から沖縄まで全国の新聞が置いてある。
試験やレポートを取っておくということだが、毎週やるようなテストもすべてか
→